

鑄 一挺

鑑 一個

砒 二個 荒砒 中砒 一

肥桶 一荷

種子物料 金壹圓五拾錢

假屋作料 金七拾五圓以內

耕牛馬ノ内每貳 戶ニ壹頭ノ割 金貳拾五圓以內

着港ヨリ移住地迄 陸路荷物運送費 金拾圓以內

第二項 出賃スヘキ金品ハ本縣ニ於テ之ヲ管理シ第一項ノ制限ニ據リ左ノ手續ニ照シテ下渡スヘシ

米及鹽附料 金品下渡ノ手續

以上各戸現在ノ人口ヲ計算シ移着ノ月ヨリ滿ニケ年間每一ケ月分其前月下旬ニ渡下スヘシ

農具農牛馬及種子物料

以上農業着手ノ緩急ニ應ジ移住初年ニ限リ下渡スヘシ

假屋作料

以上假屋ノ仕様建坪及繪圖面等ヲ検査シ積書ノ金員相當ト認ムルキハ出賃金額ヲ三分シ其一分ヲ作事着手ノ際ニ貸與シ殘ル二分ヲ假屋落成ノ後下渡スヘシ

陸路荷物運送費

以上着船場ヨリ移住地迄六里以上十里未滿ハ一戸金二圓五十錢十里以上二十里未滿ハ全上金五圓二十里以上三十里未滿ハ全上金七圓五拾錢三十里以外ハ全上金拾圓ヲ貸下ヘシ

第三項 米及農具ノ類凡ソ現品ヲ以テ貸下ヘキモノハ其時價ヲ積算シテ出賃金額ニ組入ルベシ



第四項 貸與金ハ其支出ノ遲延ニ係ラズ都テ各自移着ノ月ヨリ起算シ滿七ケ年間無  
利子据置盤八ケ年目ヨリ向二十ケ年賦ニ平均シ毎年十一月三十日限リ返納セシムル  
モノトス (但若シ期日ニ至リ滞納スル者アルモ該金額ニ年一割二分ニ相當スル  
利子ヲ課シ滞納日數ニ應ジテ徵收スベシ)

第五項 凡ソ金品ヲ貸與スルモハ先ツ第二號書式ノ仕出ヲ出サシメ之ヲ檢査シテ其誤  
謬ナキヲ認メハ更ニ第三號書式ノ証書ヲ徵シテ下渡スベシ

第六項 出生死亡ハ其都度必ス届出シメ貸與金支出ノ証憑ニ供スベシ而シテ其出生者  
ニハ届書受理ノ日ヨリ之ヲ貸與シ死亡者ニハ死去ノ日ヨリ停止スベシ

第七項 貸與金額皆納ノ日迄ハ地所及家屋農具ノ類一切之ヲ他ニ賣貸讓與シ又ハ書入  
質入ト爲スヲ許サズ

第八項 己ヲ得サル事故アリ届濟ノ上一時他ニ旅行スル者往返日數五日以内ニ歸村ス  
ルモ不在中尙ホ成規ノ米及鹽附料ヲ貸與スベシト雖モ若シ其日數六日以外ニ及フ  
片ハ歸着届書受理ノ日マテ一切之ヲ貸下サルベシ而シテ其日數ハ控除スベシ

第九項 凡ソ規則ニ悖リ義務ヲ惰リ第四條第五項ノ貸與ヲ停止セシ後尙ホ課程ヲ怠ル  
ノ場合ニ於テハ將來一切ノ貸與ヲ停止シ且ツ既ニ貸下タル金額ハ年賦返納ノ約ニ係  
ラス即時ニ之ヲ完納セシムベシ (但即時完納ヲ得サルモハ家屋及農具其他一切ノ所  
有物等ヲ公賣シ其代價ヲ追徵シ尙ホ不足ヲ生スルモハ連借人ヲシテ辨償セシムベシ)

第六條 雜則

第一項 移住者便利ノ爲メ二十戸ヲ以テ一組トシ毎組總代一名ヲ置キ都テ戸長ノ指揮  
ニ從ヒ組内ノ事務ヲ取扱ハシムベシ

第二項 總代ハ移住者中ヨリ公撰シ戸長ノ認可ヲ得ル者トス

第三項 總代ハ諸般ノ公務ヲ組内ニ傳ヘ又ハ組内ノ勤惰ヲ具シテ戸長ニ報告スルヲ得

第四項 總代ハ官給ヲ與フルノ限リコアラズ

第五項 組合中ハ平常親睦ヲ旨トシ凡ソ天災生死等緩急相救ヒ吉凶相援クルモ情誼ヲ  
厚フシ決シテ疎隔ナキヲ務ムベシ

第一號書式 (戶籍課ハ一般ノ例規ニ徵フベシ)



移住願

今般明治何年第何號御布達移住士族取扱規則ヲ遵守シ御縣下へ移住農業一途（或ハ農家ニ緊要關係ノ何々職工）ヲ以テ家産相營ニ度候間移住ノ儀御許可被成下度別紙戶籍明細調書相添此段奉願候也

何府縣下何國何郡（町村）何番地士族

年 號 月 日  
全 全  
何ノ誰印  
何ノ誰印  
何ノ誰印

函館縣令某殿

前書出願ノ趣相違無之候也 戶長 何誰印

第二號書式（農具及假家作料荷物運送費等ノ仕出書式此例ニ準スヘシ）

明治何年何月分御貸與米金仕出

一 米何程 何ノ誰  
金何程 家族何人

内 譯

米何程 七年以上六十年未滿 何 但壹人ニ付一日 米五合 金壹錢五圓

米何程 金何程 七年未滿六十年以上 何 但壹人ニ付一日 米三合 金壹錢

（以下毎戸此例ニ倣ヒ列記スヘシ）

合 米何程 金何程

右ハ本年何月一日ヨリ何日迄日數何日分米金書而ノ通御貸與被下度因之仕出候也

年 號 月 日  
戶長 何ノ誰印  
總代 何ノ誰印

第三號書式（農具及假家作料荷物運送費等ノ証書式此例ニ準スヘシ）





一金何程

是ハ明治何年何月分御貸與米金七年以上六十年未滿何人七年未滿六十年以上何人  
合何人分

右御貸與相成正ニ拜借仕候ニ付テハ都テ御規則之通相心得聊カ無相違返納可仕候萬一  
期限相滞候等不都合ノ儀有之候節ハ本人ニ係ラス連借人ニ於テ悉當辨納可仕候爲後日  
拜借証書如此ニ候也

年 號 月 日

拜借人

何ノ誰印

全

何ノ誰印

函館縣令某殿

(札幌縣甲第廿五號御達文同斷ニ付略ス)

○甲第三拾四號

士族移住民取扱規則別冊ノ通相定候條此旨布達候事

明治十六年六月廿九日

根室縣令湯地定基

(別冊)

士族移住民取扱規則

第一條 凡ソ他道ノ士族(貧困ニシテ自力移住スル能ハサルモノ)本縣管内へ送籍移住  
シテ農業及漁業ニ從事セント欲スル者ニ限リ明治十五年度ヨリ一ケ年五十戸ツノ向  
フ八ケ年間移住ヲ許可スヘキ爲メ此規則ヲ施行スヘキモノトス故ニ志願者(一戸内  
ニ勉強職業ニ耐フヘキ男女二人以上アルモノ)目途ノ當否ヲ審査シ着實ナルモノハ  
農商務卿へ稟議ノ上許可スヘシ(但士族コトハ農家漁家緊要ノ關係ヲ有スル職工ニ  
從事セント欲スルモノハ本文ニ準據スルコトヲ得)

第二條 農業ヲ以テ移住ヲ附スヘキ國ヲ釧路根室北見ノ三ヶ國其着手ノ順序ヲ二次ト  
定メ釧路根室ヲ第一着ニ北見ヲ第二着トナシ順次移住セシムヘシ漁業ヲ以テ移住ヲ  
許スヘキ國ヲ千島國トス

第三條 移住セシムル期節ヲ毎年五月ヨリ十一月ノ間トナス



第四條 前條四ヶ國ノ中地所ヲ撰ンテ左ノ十二ヶ所トシ一ヶ所へ同時移住ノ戸數ヲ五十戸トナス (但五十戸以下十戸或ハ二十戸ヅ、移ラントスルモ其數五十戸ニ充ツルヲ待テ之ヲ移スヘシ)

根室國

根室郡温根沼 百戸 全郡厚別村 百戸

釧路國

厚岸郡濱中山ノコヘロヘン 百戸 全郡真龍村 二百戸

釧路郡ヨリ白糖郡ニ至ル平原 三百戸 釧路郡 路川沿岸 百戸

川上郡塘路村 五十戸

北見國

紋別郡湧別村 百戸 網走郡網走村 二百戸

常呂郡常呂村 五十戸

千島國

國後郡泊村 五十戸 擇捉郡擇捉村 百戸

第五條 移住者ハ別紙書式ノ願書ヲ認メ本貫地方廳ニ差出シ其添書ヲ得テ本縣へ願出ス

第六條 此規則ニ頼テ移住セシ者ハ當初ヨリ廿五ヶ年間他ノ營業ニ移ルヲ許サズ若シ中途廢疾又ハ負傷等ノ故ヲ以テ其業ニ堪ヘサルモ其事實ヲ具シテ願出ス

第七條 移住地百物運搬ノ便利ヲ計リ壹戸毎ニ區畫ヲ正フシ貸與地ヲ割渡スヘシ

第八條 農業ヲ目的トシテ移住スル者ハ一戸ニ付宅地千坪開墾地壹萬五千坪以ノ内地所ヲ貸渡シ貸地年季ハ貸渡ノ月ヨリ滿七ヶ年トシ其間貸地料ヲ徵セス素地代價千坪

金五拾錢ヲ超ヘサルノ割ヲ以テ開墾地トナリタル地所ニ限り滿季後滿三ヶ年間ヲ素地代價徵收ノ期限トス該期限内上納ノ者ニハ同時ニ地券ヲ下附ノ私有地トナスヘシ

第九條 貸渡地ノ内耕地九千坪ハ移着ノ年ヨリ三ヶ年間ニ必ズ墾成スヘシ若シ三ヶ年間ヲ經過シ尙開墾ノ實ヲ擧ケサルモ其未墾ノ地所ヲ臨機ニ引揚ケ或ハ他人ニ貸渡

替テナスコアルヘシ



第十條 第八條ノ貸地滿季後二十ヶ年間ハ素地代價ヲ以テ地價ト定メ地租ヲ徵収スヘシ但素地代價徵収期年内ニ在テ素地代價未納ノ分ハ全上地租同一額ノ貸地料ヲ徵収スヘシ

第十一條 耕宅地ノ外山林原野ヲ一村若クハ數村ノ共有地ニ拂下シテアルヘシ

第十二條 山林拂下ノ順序ハ成規ニ據ルヘシ但其代價ハ實際ヲ酌量シ拂下ノ年ヨリ三十ヶ年賦上納ヲ許可スルコトアルヘシ

第十三條 既ニ拂下タル山林原野ハ永久保存ノ方法ヲ立テシメ其樹木ハ自家ノ建築及薪炭用ノ外濫リコ伐採スルヲ許サズ

第十四條 貸出スヘキ金額ハ一戸金三百六十三圓ニ超ヘサルノ額ヲ程度トス而シテ其農業者ニハ本條及ヒ第十九條第二十條第二十一條ニ依リ漁業者ニハ第十六條第十八條第十九條第二十條第二十一條ニ依リ貸出ヲナスヘキモノトス

一新墾アラサ  
但三頭率  
壹個

一麻製牽馬具 四頭分 一耕馬 五頭 一ハロー 壹箇

右ハ移住初年度ニ限リ十戸ヲ一組トナシ貸與ノ分

一鍬 三挺(大)(小) 一鐮鋸山刀 各一挺 一鎌 二挺(柴刈)(草刈)

右ハ移住初年度ニ限リ毎戸貸與ノ分

以上諸器具ノ修補等ハ自辨タルヘシ

第十五條 移住メテ特別ナル官ノ保護ヲ受クル期限内ハ左ノ種類ヲ播種セザメ管應コ於テ其収獲物販賣ノ途ヲナシ與フヘシ

大小麥 麻 蕎麥 大小豆 粟

第十六條 漁業ヲ目途トシ移住スル者ハ千島國地方ニ於テ新開ノ漁場ヲ撰ヒ一戸ニ付一ヶ所或ハ二ヶ所ヲ貸渡シ貸渡年季ハ貸渡ノ月ヨリ滿五ヶ年トシ其間貸地料ヲ徵セズ素地代價ハ千坪金七十五錢ヲ超ヘサルノ割ヲ以テ開地トナリタル地所ニ限リ滿季後滿三ヶ年間ヲ素地代價徵収ノ期限トス該期限内上納ノモノハ同時ニ地券ヲ下附シテ私有地トナスヘシ



第十七條 第十六條貸地滿季後十ヶ年間ハ素地代價ヲ以テ地代ト定メ地租ヲ徵収スヘシ但素地代價徵収期年內ニ在テ素地代價未納ノ分ハ全上地租同一額ノ貸地料ヲ徵収スヘシ

第十八條 漁業目途ニテ移住ノモノハ十五戸一組トナシ金額千八百六十六圓以內ヲ以テ移住初年ニ限り左ノ漁船并ニ漁具ヲ貸與スヘシ

- 一 圖合船 貳艘
- 一 チヨロ船 壹艘
- 一 持府船 貳艘
- 一 建網 壹統
- 一 引網 壹統
- 一 鋪 一鋪
- 一 拾壹挺 一漁舍 壹棟

以上諸器具ノ修補等ハ自辨スヘシ

第十九條 家屋ハ農漁ノ別ナシ一戸十五坪ノ草小家壹棟新築費トシテ金九十圓以內ノ額ヲ二期(着手ノ際落成ノ上)ニ貸與スヘシ但官口於テ新築ノ上貸與セラレシコトヲ請フ者アルハ其請願ヲ許スヘシ

但自費ヲ加ヘ建家ノ坪數ヲ増加セントスル者ハ本人ノ隨意ニ任スヘシ

第二十條 食料ハ人員ニ應ジ農業者ハ若籍ヨリ二ヶ年漁業者ハ一年六ヶ月間左ノ割合

ヲ以テ玄米及鹽贈料貸與スヘシ  
玄米

七年以上六十年未滿一日一人玄米五合七年以上未滿六十年以上一日一人米三合ノ割ヲ以テ貸與スヘシ

鹽贈料

七年以上六十年未滿一ヶ月一人金四十五錢七年以上未滿六十年以上一ヶ月一人金三十錢ノ割ヲ以テ貸與スヘシ

第廿一條 着港ヨリ移住地迄陸路ノ距離六里以上アルモノニ限り荷物運送費トシテ若干ノ金額ヲ貸與スルコトアルヘシ

第廿二條 第十四條ヨリ第二十一條ニ於テ貸與シタル物品ノ金額ハ無利子七ヶ年据置キ第八ヶ年目ヨリ向フ二十ヶ年賦ヲ以テ毎年十一月三十日限り返納スヘシ

但貸與シタル物品代價ハ其年度未決算ノ上各自ニ報告スヘシ

第廿三條 移住人保護獎勵監督ノ爲就業課程ヲ定メ其係ヲシテ毎ニ勤惰ヲ糺スヘシ若



シ懶惰ニシテ其課程ヲ勉メサルモノアルハ臨機貸與ヲ停止スヘシ然ル上尙ホ課  
程ヲ怠ルモノハ既ニ貸下ケタル金額ハ年賦返納ノ規則ニ係ハラズ即時ニ之ヲ完納セ  
シムヘシ即時完納シ得サルハ家屋及農具其他一切ノ所有物ヲ公賣シテ其代價ヲ追  
徴シ尙ホ不足ヲ生スルハ連借人ヲシテ辨償セムヘシ

第廿四條 已テ得サル事故アリ屆濟ノ上一時他ニ旅行スル者往返日數五日以内ニ歸村  
スルハ不在中尙ホ成規ノ米及鹽贈料ヲ貸與スヘシト雖モ若シ日數六日以外ニ及フ  
ハ歸着屆書受理ノ日マテ一切之ヲ貸下サルヘシ而シテ其日數ハ扣除ニ歸スヘシ

第廿五條 移往人出生死亡ハ其都度必ス届出ヘシ其出生者ハ屆書受理ノ日ヨリ成規  
ノ貸與ヲナシ死亡者ハ死亡ノ日ヨリ停止ス

第廿六條 貸與金額皆納ノ日マテハ地所及家屋農具ノ類一切之ヲ他ニ賣買讓與シ又ハ  
書入質入ト爲スヲ許サズ

書 式(用紙美濃紙五通)

移住願

私 共 儀

明治十六年御懸申第 號御布達士族移住取扱規則ニヨリ(農漁)業ノ目途ヲ以テ某年  
某月ヨリ御管下某國(郡村)へ移住仕度ニ付御詮議ノ上御許可被成下度然ル上ハ御成規  
ハ勿論時々ノ御命令ヲ遵守シ誓テ成業可仕候戸籍書寫相添連署ヲ以テ此段奉願上候也

某府縣(町村)番地主族

明治 年 月 日

姓 名 印

年 齡

以下同前連名

根室縣令某殿

右總代人 二名(移住願人ノ中ニテ)

○第拾號 九月二十日 府 縣

牧場存廢ノ景況左ノ雛形ニ據リ調製ノ上來ル十二月二十日限ヨリ可差出尤牧場無之府縣  
ハ同日迄ニ可申出此旨相達候事 (但雛形ニ掲ケル事項中變換若クハ増減等有之節ハ  
本文ノ手續ニ準シ毎年一月三十一日限り届出ヘシ)



現在牧場

位置	何國何郡何村字何々東南又ハ西北何河海ニ面シ西北又ハ東南何原野接續若シハ何々山ヲ負ヒ平地丘陵凸凹等ノ景狀ヲ詳記スヘシ
反別	何百何拾町歩内 官有地幾何 民有地幾何
水草	何河又ハ溪水池井戸等動物ノ飲料ニ足ルヤ否ヤ草ハ重コ何々ノ種類ニシテ發生ノ粗密及長短發芽枯瘦ノ期節
樹木	何樹何反歩又ハ何々樹木散立シテ動物寒暑及風雨ヲ避クルコ足ルカ否ヤヲ記スヘシ
氣候	極暑極寒ノ度及結霜降雪解雪ノ時期并積雪ノ淺深風雨ノ多寡等ノ景況ヲ記スヘシ
地質	何々土質ヲ記スヘシ
牛	純粹何種何等何種何回雜種何頭總テ牝牡親牝ヲ區別スヘシ
馬	同斷
羊	純粹何種何頭何雜種何頭總テ牝牡親仔ヲ區別スヘシ

畜養法	何月ヨリ何月迄舍飼何月ヨリ何月迄野飼及其手續キ食料ノ種類斤量等ヲ記スヘシ
交尾節期	牛何月ヨリな月迄馬羊モ亦同上
蕃殖景况	開牧以來年々親牝畜 三才以ノ頭數ニ對シ出生牝ノ割合馬羊モ亦同シ
販路	何々地方へ蕃殖用耕用運搬用肉用乳用ニ販賣ス(以上ノ各用中總テ其重ナルモノヲ掲クヘシ)
運搬	何溝何河 舟楫ノ便ア エ何里何街道 國道縣道 區別 エ何里何々驛 其近傍著名エ何里ニシテ其道路ノ難易ヲ記スヘシ
着手年月	何年何月
家屋	畜舎牧夫舎ノ如キ總テ牧場ニ建築シタル家屋ノ棟數
沿革	該牧場ハ原ト何々ノ地ナルヲ何年中何ノ誰始テ何々ニ着手シ以後何ノ誰へ譲リ何年何月當牧者へ譲リ渡シシ等ノ如キ事跡ヲ記載スヘシ
牧主	何府縣何國何町村 華士族 平民何ノ誰



年月日

何府縣

廢牧場 但舊藩場ノ頃牧場ニシテ現今廢牧トナ  
リタルモノ、開牧當時ノ景況調ナリ

位置

何國何郡何村字何々東南又ハ西北何河海ニ面シ西北又ハ東南何原野接續  
シ若クハ何々山ヲ負ヒ平地丘陵凸凹等ノ景狀ヲ詳記スヘシ

反別

何百何拾町步

水草

何河又ハ溪水池井戸動物等ノ飲料ニ足りシヤ否ヤ草ハ重ニ何々ノ種類ニ  
シテ發生ノ粗密及長短發芽枯瘦ノ期節

樹木

何樹何反步又ハ何々樹木散立シテ動物寒暑及風雨ヲ避クルニ足りシヤ否  
ヤヲ記スヘシ

氣候

極暑極寒ノ度及結霜降雪解雪ノ時期並積雪ノ淺深風雨多寡等ノ景況ヲ記  
スヘシ

地質

何々土質ヲ記スヘシ

藩殖景况

親牛馬牝何頭牝何頭ノ内ヨリ年々出生シタル駒犢ノ頭數ヲ記スヘシ

馬捕獲

追込場又ハ溜場或ハ網綱ノ類ニテ捕獲スル等ノ手續ヲ記スヘシ

管理

牧場取締手續キ水草及周圍堤柵等手入并畜養法ヲ詳記スヘシ

開牧廢牧

開牧及廢牧ノ事由并年月ヲ記スヘシ

沿革

管理法ヲ何々ノ爲メニ變更シ又種蓄ヲ何地方ニ求メ來リシテ何年頃ヨ  
リ何地方ヨリ講求シ其蕃殖牛馬ノ使用或ハ販路ノ方法等ノ如キ事跡ヲ  
記スヘシ

牧主

持主ノ族籍姓名ヲ記スヘシ

年月日

何府縣廢牧後現今ノ景況

位置

何國何郡何村字何々等ヲ記スヘシ

反別

何百何拾町步内 官有地幾何  
民有地幾何

水草

何河又ハ溪水池井戸等動物ノ飲料ニ足ルヤ否ヤ草ハ重ニ何々ノ種類ニ  
シテ發生ノ粗密及長短等ヲ記スヘシ

樹木

何樹何反步又ハ何々樹散立シテ動物ノ寒暑避ケト  
ナルヤ否ノ別ヲ記スヘシ

運搬

水陸運搬ノ便否ヲ記スヘシ



年月日

何府縣

○第拾壹號 九月廿五日 府縣

本年五月第拾三號布達第五條勸業委員ノ人員撰舉方法及ヒ處務ノ順序等ハ區町村會又ハ聯合區町村會ノ評定ニ任スヘキノ所該會ノ設置無之地方ニ於テ其手續ヲナスヘキ爲メ之ニ代フルニ區町村從來慣行ノ相談會等ニ於テ評定スルモ不苦爲心得此旨相達候事

○第拾貳號 十月二日 警視廳府縣(東京府神戶縣ヲ除ク)

本邦在留朝鮮人鳥獸獵免狀ヲ請求スル者ハ遊獵免狀ヲ下附シ總テ内國人同様處分候儀ト可相心得此旨相達候事

○第拾三號 十月廿五日 府縣

明治十四年第拾貳號公布ニ據リ自今蒸氣ハ拾噸風帆ハ貳拾噸以下及湖川港灣ニ限リ運航スル船舶ハ左ノ離形ニ準シ取調毎年六月三十日ノ現在數ハ其年八月十五日限リ十二月三十一日ノ現在數ハ翌年二月十五日限リ當省ニ可届出此旨更ニ相達候事  
但明治十四年内務省乙第拾四號達ハ廢止ス

(離形) 西洋形船舶(何年何月何日)現在員數調

貫籍宿所

船主氏名

船名	定繫場	船ノ種類	綱具裝置	船体ノ材料	製造年月	製造地名	橋ノ數	長	幅	深	総噸數	登簿噸數	馬力

○第拾四號 十一月六日 府縣

本年八月第九號達中左ノ但書追加候條此旨相達候事(原達訂正)

○第拾五號 十一月九日 府縣

明治十八年繭絲織物陶漆器共進會開設候ニ付テハ地方官心得左之通相定候條此旨相達候事

繭絲織物陶漆器共進會地方官心得



- 第一條 本會開設ノ旨趣ハ務テ有益コソ實用コソ適スル物品ノ改進増殖ヲ計リ内需用ヲ足レ外輸出ヲ盛コスルニ在リ故ニ觀美虚飾ヲ主トスル物品ハ之ヲ出陳セシム可ラス
- 第二條 府縣廳ニ於テハ本會ノ爲メニ委員ヲ設ケテ出品其他ノ事務ヲ掌管セシムヘシ但委員ノ姓名ハ豫テ届出置ヘシ
- 第三條 府縣委員ハ遅クモ明治十八年一月卅一日迄ニ上京ソ陳列等ノ事ヲ幹旋スヘシ
- 第四條 陳列場所ハ出品目錄ニ照シ豫シメ坪數ヲ定メ每府縣ニ割與スヘシト雖モ實際ノ都合ニヨリ之ヲ増減伸縮スルコトアルヘシ
- 第五條 出品目錄ハ會場地坪割當ノ都合アリ又出品解説ハ審査ニ必用ナルヲ以テ熟シモ其差出期限ヲ誤ヘカラス
- 第六條 出品目錄及ヒ出品解説ハ一類毎ニ調製シ差出スヘシ
- 第七條 本會ニ關スル布達等ニ陶ト稱シタルハ燒物一般ヲ指シタルモノナルカ故ニ出品目錄及ヒ出品解説ニ於テハ固ヨリ土燒石燒等ノ區別ヲ記スヘシ
- 第八條 出品主ニハ成ルヘシ本人ノ出京ヲ勸メ各地ノ出品ヲ實際ニ比較シ將來目的ヲ

立ツルノ裨益ヲ得セムヘシ

第九條 賣店建築ハ數人合併スルモ妨ケナシ尤モ合併ハ管轄ノ異同ヲ問ハサル者トス  
○第拾六號 十一月廿六日 府縣

私立西洋形造船所並造船員數等自今左ノ書式ニ倣ヒ毎一年分取調整年二月限り當省へ可届出此旨相達候事

西洋形造船所并造船員等書式

船ノ種類	船名	噸數	馬力	製造代價	造船工長族籍氏名	持主族籍氏名	造船所位置	創立年月
帆船	何々	何噸	何馬力	何圓	何(府縣)華士族平民何誰	何(府縣)華士族平民何誰	何府何郡何區何町	何年何月
合計	何艘	何噸	何馬力	何圓	何人	何人	何箇所	

備考 每一週年間各造船所ノ廢置及盛衰ノ概況ヲ記スヘシ



○第拾七號 十二月一日 府 縣

毎年十月一日ヨリ當省於テ勸業會開設候條農商工及山林ニ關スル課掛ノ内重立候者一名ツ、出京可爲致此旨相達候事（但本年度ノ分ハ來ル十七年一月十五日ヨリ開設候事

○第拾八號 十二月七日 府 縣

今般當省ニ於テ本朝ノ農書ヲ編纂候ニ付農政農業ニ關スル古文書及舊記類總テ農書ニ參考スヘキモノハ其題名目次取調當省農書編纂掛ヘ可差出此旨相達候事

○第拾九號 十二月十五日 大藏卿連名 府縣（東京府ヲ除ク）

明治九年内務省乙第八拾四號達（府縣上納金ノ内ヲ以テ郵便爲替資金ヘ繰替方法）相廢止候條此旨相達候事

○第貳拾號 十二月十九日 府 縣

内國人民ノ備ニ應ニ其所有船隻ニ乘組居ル外國人有之向ハ國名氏名并船名船主氏名トモ來明治十七年二月十五日限り取調當省ヘ可届出尤自今備入又ハ解備候節ハ其都度可届出此旨相達候事 但備入有無トモ本文日限迄ニ可届出事

○第貳拾壹號 十二月廿八日 府縣（函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ヲ除ク）

農商工山林ノ盛衰消長ヲ詳悉スヘキ爲メ生産消費ノ數量ヲ調査スルハ勸業ノ要務ナルヲ以テ遍ク全國通信ノ氣脈ヲ連絡スヘキ農商務通信規則左ノ通相定候條右ノ準ヲ取扱フヘシ此旨相達候事 但本文ニ關スル通信事項ハ更ニ主務局ヨリ通牒スヘシ

農商務通信規則

第一條 農商工山林ニ關スル事件ハ此規則ニ據リ府縣廳及ヒ通信員ヨリ主務局ニ報告シ主務局ハ府縣廳又ハ通信員ヨリ諮問應答スヘシ

第二條 通信ヲ分ナテ定期報臨時報ノ二種トス

第三條 定期報トハ通信事件中特ニ報告期限ヲ定メタルモノヲ云フ

第四條 臨時報トハ通信事件中報告期限アルト否トニ關セズ臨時報告ヲ要スヘキモノヲ云フ（但非常ノ變異ニ係ル場合ハ電報ヲ用フヘシ）

第五條 報告上物質形狀等文辭ニ盡シ難キモノハ圖畫、寫眞、雛形若クハ見本等ヲ添ヘ量比例歩合等ニ係ルモノハ表ヲ附スヘシ



第六條 報告ハ可成平易ノ文字ヲ用等并又數量歩合等ニシテ地方慣用ノ稱呼アル  
モノ及ヒ方言等ハ解說ヲ加フヘシ

第七條 府縣廳又ハ通信員ニ於テ質問ヲ要スル事件アルトキハ其事由ヲ詳記シテ  
主務局ニ質問スヘシ

第八條 定期及ヒ臨時報ノ外農商工山林ニ關シ尙ホ報告ヲ要スヘキ事項左ノ如シ

一 地方廳ノ調査會、會社、協會等ノ規則并ニ報告書又ハ官民ノ著述、編纂、翻譯及ヒ報告書等ハ可成現本ヲ送致スヘシ但著譯書等冊數浩濶ナルモノハ題名、目錄及ヒ其要旨ノミヲ報告スルモ妨ケナシ

二 有功者ノ事蹟及ヒ履歷等ハ古今ニ拘ハラヌ調査報告スヘシ

三 改良、發明、試驗ノ成績範ヒ該事業ニ關スル各地方從來ノ習慣新設ノ方法等ハ可成周密ニ報告スヘシ

四 博覽會、共進會、集談會等ノ開設アルトキ其開閉期日及ヒ出品談話ノ景況等ヲ報告スヘシ

第九條 第一條第七條ニ依リ通信員ト主務局ノ間ニ於テ文書ノ往復ヲ爲シクルト

キハ其寫ヲ添ヘ通信員ヨリ直チニ府縣廳ヘ申報スヘシ

第十條 通信員ハ各府縣ニ於テ適宜相設ケ候籍姓名住所ヲ記シ當省ヘ届出ツヘシ

○第貳拾貳號 十二月廿八日 府 縣

農務上必要ノ儀有之ニ付舊藩ニ於テ鳥獸獵ニ關セシ制藩度并内郡村ノ申合慣行等ニ於テ右ニ關シシテ項舊代官山林方等相勤候者ノ覺書若クハ記憶ニ存スル者及ヒ村方古老ノ口碑ニ存スル者ニ至ル迄左記ノ通毎項詳細取調來明治十七年三月限當省ヘ差出スヘシ此旨相達候事

但古書類現存候ハ、官簿ニ係ル分ハ勿論私書ニ係ル分ハ借上ケ回送スヘシ

一 舊藩々ニ於テ鳥獸獵ニ關シテ設ケタル制度又ハ一時限ノ達示禁令等ノ有無

其目

一 鳥獸獵ハ士民一般隨意ニ爲スヲ得シヤ又ハ何々ノ身分若クハ白痴瘋癲幼者ノ類ニ限リ之ヲ禁止セシマアリヤ



一凡ソ鳥獸獵ヲ爲ス者及ヒ沼湖水澤ニ於テ鳥獸獵請負ノ許可ヲ得ル者ニハ鑑札ノ類ヲ下渡シ幾分カノ税金又ハ冥加金等ヲ取立タルコトアリヤ果シテ然ラハ其地ノノ而積汗壹ケ年ノ金額何如

一鳥獸獵ヲ爲ス者ハ何人ノ所有地内ト雖モ勝手ニ立入其地内ノ鳥獸ヲ獵獲スルコトヲ得シヤ又門戸牆柵等アル地ト普通ノ田圃森林トノ間ニ於テ自ラ區別アリシヤ一藩屬山林中タリトモ勝手ニ立入獵獲スルコトヲ得シヤ又ハ稅納冥加納其他制限アリシヤ

一果シテ勝手ニ立入獵獲スルコトヲ得ルトキハ若シ地主ニテ樹木穀類等ヲ蹂躪サルハ害ヲ虞リ其立入ヲ拒マントスルニハ何様ノ手續ニ由ラザルヤ  
一自己ノ所有地内ニ棲息飛走スル鳥獸ヲ其地主自ラ獵獲スルト他人ノ獵獲スルトノ間ニ權利ノ差別アリシヤ

一禁獵ノ場所ハ何々ノ地ナルヤ又禁獵地タルヲ公衆ニ明示スルニハ何々ノ方コ由リシヤ

一獵具ハ何々ヲ許シ何々ヲ禁セシヤ又夜中若シハ場所ヲ限某獵具ノ使用ヲ禁セシコトアリヤ

一獵犬使用上ニ付以維方法ヲ設ケシコトアリヤ  
一何々ノ鳥獸ハ何々ノ理由ニヨリ一切獵獲スルコトヲ禁シ又何々ノ鳥獸ハ何々ノ理由ニヨリ時ヲ限リ獵獲スルコトヲ禁スル等ノコトアリシヤ又此等ノ關係ヨリシテ鳥獸賣買上ノ取締法等ヲ設ケタルコトアリシヤ

一田圃森林等ノ害ヲ除クガ爲メ藩コトテ定時又ハ臨時ニ鳥獸獵ヲ爲シタルコトアリヤ  
一有害鳥獸ヲ獵獲セシ者ニ褒賞ヲ與フル等ノコトアリシヤ  
一鳥獸獵ニ關シ罰則ヲ施行セシコトアリシヤ

一甲獵者カ負傷セシメタル鳥獸ヲ乙獵者カ獲タルトキ甲乙兩者ニ於テ何レノ所有ト爲スヘキヤ及ヒ之ヨリ生スル權利務ノ定等アリシヤ  
一山林方役人又ハ山林番人等ニハ其職務上ニ於テ鳥獸ヲ獵獲スルヲ常ニ許可シヤ  
一シヤ又其獵獲セシ鳥獸ハ其者ノ所有トセシヤ將テ藩廳ニ上納セシヤ又藩廳ニ



上納スルコ付テハ手當金等給與セヨアリシヤ

右ノ外一郡一村限ノ申合ニ係ル例規及ヒ古來ノ慣行等前目次ニ準シ詳細取調フヘシ尤前目次中ニ揭示セサル者ト雖モ鳥獸獵ニ關シタル舊藩政事上ノ事項民間ノ慣習等ハ洩レサル様記載スルヲ要ス

明治十六年 官令全書

○司法省丙號之部

○丙第壹號 三月十二日 大審院裁判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

刑事裁判上在本邦外國公使館ニ備ハレタル内國人ニ對シ發スヘキ令狀ハ明治七年第百二十八號公達ニヨリ公使館ニテ唯詰ノ上執行セシムヘキハ勿論ニシテ其ノ唯詰ヲ經ルノ手續ハ明治十四年第五十三號公達ノ旨モ有之コ付大審院并裁判所ハ其事柄ヲ明記シ當省ヘ申出指令ノ上其令狀ヲ發シ又警視廳府縣ニ於テハ其長官ヨリ外務省ヘ申出右唯詰ヲ經ルノ手續キヲ了シ令狀ヲ執行セシムヘキ儀ト心得ヘシ爲念此旨相達候事但本文令狀執行者ハ專シ明治七年第百廿五號達ノ旨趣ニヨリ聊不都合ノ取計無之様厚ク注意セシムヘシ

○丙第二號 五月十四日 大審院裁判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

勅奏官華族并ニ有位帶勳者犯罪取扱方ノ儀ニ付別紙ノ通太政官ヘ相伺候處朱書ノ通御指令相成候條爲心得此旨相達候事



但御指令文中十五年三月二十二日附御達ハ同年當省丙第十一號達ト可相心得事

勅奏官華族等犯罪取扱方ノ儀伺

勅任官禁錮ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シ及ヒ委任官華族帶勳有位ノ者禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ犯罪取扱方ノ儀ニ付テハ明治十五年三月二十二日附テ以テ御達有之候處其罰金ニ處スヘキモノト雖モ或ハ本人ヲ出廷セシムル場合モ有之且又拘留ノ刑ニ處シ及ヒ罰金科料ヲ納完セサル節ハ則換ノ刑輕禁錮又ハ拘留ニ處スヘキ儀モ有之候條右本人ヲ出廷セシムル場合及ヒ換刑ニテ輕禁錮又ハ拘留ノ刑ニ處スヘキ時ハ矢張其時々奏聞可致儀ト相心得可然哉此段相伺候也

明治十六年三月三十一日

司法卿大木喬任

太政大臣三條實美殿

朱書

伺ノ通 但十五年三月二十二日附其省ハ達中帶勳有位者トアルハ勳六等以上從六位以上ヲ指シタル儀ト可相心得事

明治十六年五月八日

○丙第三號 六月十一日 警視廳府縣(東京府沖繩縣ヲ除ク)

明治十四年當省丙第十二號達各警察署并ニ警察分署所在名稱區畫届出方ノ儀ハ以來廢合改稱新設等有之都度右達ノ雛形ニ照準左ノ箇條ヲ明記シ可届出儀ト心得ヘシ此旨相達候事但已ニ廢合改稱新設等有之モ未届出サレ向ハ本文ニ準テ急速可届出事

一何年何月廢署或ハ何警察本分署ニ合併或ハ新設或ハ改稱

一何年何月何警察署管轄某村ハ何警察署ニ某町某村ハ何警察分署ニ屬ス或ハ新設ニ係

ルトキハ何警察署管内某村何警察分署管内某村某町トテ管轄セシム

○丙第四號 七月十四日 大審院裁判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

監倉若クハ獄舎ニ在リ被告人ニ送達スヘキ渾テノ書類ハ裁判所ヨリ監獄署ニ送達ノ手續ヲ囑託シ該署ニ於テハ規則ニ從ヒ本人ニ送達シ令狀ハ其正本其他ハ送達書ノ一本ヲ裁判所ニ返還スヘキ様取斗ヘシ此旨相達候事

但從前ノ指令内訓本文ニ抵觸スル條件ハ渾テ取消候事

○丙第五號 八月六日 警視廳府縣(東京府ヲ除ク)



長野縣下信濃國鹽澤村新田平民義三郎事依田儀作義同縣平民萩原幸藏ヲ殺害逃走ニ付捕縛方儀ノ十四年當省乙第三十號以テ相違候處右ハ人違之旨同縣ヨリ通知

○丙第六號 八月七日 府 縣(東京府ヲ除ク)

陸軍常備下士卒服役中ノ者違警罪ヲ犯シ其處分ヲ爲シタル節ハ其人名册科ヲ詳記シ其都度本人處管(隊附ナレハ該隊長)ニ速ニ通報可致此旨相違候事

○丙第七號 十月十一日 警視廳府縣(東京憲兵本部)

當省ニ納付可相成雜收入金豫算調ノ儀毎年十月廿日限差出候儀ト可心得此旨相違候事但十七年度分ハ本月卅日限可差出事

○丙第八號 十一月五日 警視廳府縣

保釋責付中ノ被告人取締方心得ノ儀ニ付左ノ通各裁判所ニ相違候條此旨爲心得相違候事 (別紙ハ丁第三十一號同一ニ付答ス)

○丙第九號 十一月十三日 大審院裁判所警視廳府縣(東京府除ク)

刑事ニ付キ警察官ノ處分ニ屬スル費用ハ起訴ノ前後ニ拘ハラス裁判費用ニ相立テサレ

者トス然レモ豫審判事ノ囑託ヲ受ケ豫審處分ヲ爲シタル場合ハ此限ニ在ラス此旨爲心得相違候事但本文ニ抵觸スル指令内訓ハ取消候事

○丙第十號 十二月十八日 警視廳府縣憲兵本部

雜收入金上納記并ニ明細書從前書式相廢シ左ノ雛形之通改正候條以來右ニ照準取調本人納証一同翌月十五日限リ可差出若シ收入無之ハ其旨可届出此旨相違候事

但納証綴首尾ニ白紙ヲ用ヒ何年何月雜收入金上納証何府縣ト記載可致候事用紙十三行野紙

上納記

何月分雜收入

贓贖追徵金

一金 但何地大藏省爲換方(何銀行又ハ何ノ誰)納金証書何葉ヲ以テ

内譯

金 金 金

贓物賣拂代 科料 金

右ノ上納候也



明治何年何月何日

司法卿宛

官姓名印

用紙十三行紙

何年何月雜収入金明細書

一金

内譯

贓贖追徴金

金

内

贓金

金

内

國郡町村人名何々付納

金

内

贓物賣拂金

金

内

國郡町村人名何品何々付拂代

金

内

科料金

右之通候也

國郡町人名何々付納

年月日

何府縣

首尾ニ白美濃紙ヲ用ヒ表紙ニ何年何月雜入金明細書何府縣ト記載スヘシ

明治十六年 官令全書

○司法省丁號之部

○丁第壹號 一月十三日 始審裁判所

支廳ノ印章左ノ通相定候條各廳ニ於テ調製シ印鑑ヲ以テ可届出此旨相違候事

印章雛形

始審裁判所支廳

各一顆ヲ彫刻ス

方	曲	一尺	寸	五	分
某	裁	某	支	應	
始	判	所			
審	所				

輕罪裁判所支廳

字体ハ篆書ヲ用ヒ認メ易キヲ要ス且文字ノ數ニヨリ或ハ(之印)等ノ文字ヲ刻スルモ妨ケナシ

○丁第貳號 一月十三日 始審裁判所治安裁判所

支廳管内ニ在ル治安裁判所(支廳所在地ヲ除ク)ニ於テ輕罪裁判所ヲ開クトキ用ユヘキ

官令全書

司法省丁之部

○二百八十



印章ハ明治十四年當省丁第二十七號達ノ例ニヨリ治安裁判所ニ於テ所轄支廳ノ印章ヲ  
調製シ押用スル儀ト心得ヘシ此旨相達候事 (但調刻ノ儀ハ印鑑ヲ以テ届出ツヘシ)

○丁第三號 一月十三日 裁判所

明治十四年十二月(當省丁第廿四號達中始審裁判所ノ次行ヘ左ノ一行ヲ增加ス此旨相  
達候事

増加

始審裁判所支廳 三部

○丁第四號 一月廿五日

裁判所

裁判所ヨリ戸長ヘ對スル公文ノ義ニ付明治十四年二月八日及内訓置候趣モ有之候處自  
今右戸長ヘ對スル公文ニ於ケルモ渾ラ明治十四年當省丁第二十九號達ニ據リ取計ヘシ  
此旨相達候事

○丁第五號 二月一日 大審院裁判所

刑事ニ付戸長ヲ經テ本人ヘ書類ヲ送達スヘキ際是迄戸長ニ於テ使テ貸錢操替渡シヲ爲

シ候儀モ有之候處自今右操替ヲ要スル節ハ一時裁判所ニ於テ操替置追テ本人ヨリ償却  
セシムヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

但從前ノ指令内訓本文ニ抵觸スル條件ハ取消候事

○丁第六號 二月三日 大審院裁判所

民事裁判上引合人トシテ出廷セシメタル官吏着席ノ儀ハ明治十五年丙第三十二號達ニ  
準リ取扱フ可シ此旨相達候事 (但人民ヨリ官廳ニ係ル訴件ニ對シ引合人トナリ出廷  
シタル官吏着席ノ儀ニ付テハ本文ノ限ニ無之事

○丁第七號 二月十四日 大審院裁判所

官員勸怠調方ノ儀明治十年丙第三號同十一年丁第八號ヲ以テ相達置候處自今年二回(一  
六月十二月)別紙雛形ニ準リ取調翌月五日限リ該地可差立此旨相達候事(雛形略ス)

○丁第八號 二月廿二日 大審院裁判所

明治十五年丁第四十六號及丁第六十二號ヲ以テ長野縣下飯山第二十四國立銀行及大坂  
府下第百廿六國立銀行鎖店ノ義ニ付相達置候處右ハ權利義務ニ付爭論無據詞訟ヲ言フ



若シテ若ク争論有之ニ於テハ其曲直ヲ裁判シ其執行ハ大審省ノ處分ニ歸セシムルニキ  
筋ニ有之候條爲念此旨相達候事

○丁第九號 二月廿四日 大審院裁判所

明治十四年(十月)當省甲第五號布達ニ據リ巡査ニ於テ警部代理ノ資格ヲ以テ取扱事件  
ニ付テハ裁判上渾テ警部同様ノ取扱ヲ爲スヘシ此旨相達候事

但從前ノ指令内訓本文ニ抵觸スル條件ハ取消候事

○丁第拾號 三月六日 大審院裁判所

明治年十四月廿八日出仕ヲ以テ勤解ノミヨ使用スルハ不苦旨治安裁判所ニ相達候  
處自今同裁判所ニ於テハ出仕ヲ以テ民事裁判ニモ從事爲致不若候條此旨相達候事

○丁第拾壹號 三月六日 大審院裁判所

身代限分配加入訴ノ義ニ付別紙ノ通長野治安裁判所同ニ對シ及指令候條爲心得此旨相  
達候事 (但該指令ニ抵觸スル從前ノ指令内訓ハ自今消滅シタル義ト心得ヘシ)

長野治安裁判所長伺(明治十六年二月十七日)

治安裁判所ニ於テ金額百圓未満ノ訴件身代限處分中金額百圓以上ノ債主其分配加入  
始審裁判所ニ出訴シ其權義確定セシ後該件ヲ受付シ來ルヲ以テ治安裁判所ハ之ヲ併セ  
其處分ヲ爲ス右治安裁判所ニ於テ身代限ノ處分ヲ受ケル原告ハ他ノ債主ヨリ始審裁  
判所ニ金額百圓以上ノ訴ヲ爲センコトヲ知リ得サル以前ニ在テハ(始審裁判所ヨリ金額  
百圓以上ノ訴件ヲ受付サル、カ又ハ原告ヨリ他ニ分配加入ノ事件アルトノ申述ヲ聽  
クニ非サレハ)他ニ分配加入ノ訴ノ之レナキ者トナシ期ニ至リ分配處分濟ノ後始審聽  
ヨリ該件ノ到達スル如キハ多少官民ノ手數錯雜スルノミナラス隨テ費用ヲ要ス前願ノ  
場合金額百圓未満ノ訴件治安裁判所ニ於テ身代限處分中同負債者ニ掛リ其分配加入ノ  
訴ヲ爲サント欲スル者ハ其處分ヲナス治安裁判所ニ直ニ出訴セシメ其治安裁判所ハ該  
分配事件ニ限リ金額百圓以上ト雖モ都テ之ヲ受理シ判決ヲ與フヘキハ之ヲ與ヘ而テ該  
裁判權ハ始審裁判所ニ於テ裁判セシモノハ同一ト爲シ其裁判不服ナルモ直ニ上等ナ  
ル控訴裁判所ニ控訴スル權ヲ有セシメテハ實際便益不少ノミナラス明治十四年第八十  
三號御布告ノ權限ニモ敢テ抵觸セサル義ト被考候條治安裁判所ニ於テハ身代限分配加



入ノ訴ニ限リ金額百圓以上ト雖モ受理審判致不苦哉此段相伺候至急何分ノ御指令奉仰  
候也

指令(明治十六年三月五日)

伺ノ越身代限分配加入ノ件ハ金額ノ多寡ニ拘ハラス明治七年第七十一號布告揭示案ノ  
旨趣ニ依リ身代限ノ處分ヲ爲シタル裁判所ニ於テ之レヲ受理スヘク若シ其事件裁判ヲ  
要スルニ至ルモハ明治十四年第八十三號布告ノ權限ニ照シ之ヲ管轄裁判所ニ送附シ其  
裁判ヲ受シメタル上身代限ヲ爲シタル裁判所コテ分配ヲ爲スヘキモノトス

○丁第拾貳號 三月十四日 大審院裁判所

裁判上徴収スル金錢書記局ヨリ會計課ニ授受ノ際若シ封印ノ儘附托ス可モノアル時ハ  
書記會計其他立會而前ニテ篤ト目數ヲ調査シ合封印ノ上授受ノ手續可致此旨相達候事  
但會計課ヨリ受取候節モ本文ノ手續ニヨリ開封ノ上受取可

○丁第拾三號 三月十九日 裁判所

始審裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ開付シキノ手續等ニ本年一月第七拾貳號ヲ以テ内訓

及置候處其重罪事件ニ係ル事實ノ探討若シハ此ニ關スル景況ノ通報等ハ右始審裁判所  
檢事ヲシテ其取調ヲ爲サシムルモ總テ是迄ノ通治罪法第七拾六條并明治十四年當省丁  
第三拾四號達ニ據リ控訴裁判所檢事長ニ於テ之ヲ調成シ差出スヘキ事ト心得ヘシ爲念  
此旨相達候事

○丁第拾四號 四月十二日 控訴裁判所始審裁判所

重罪裁判所ノ取扱ニ係ル各刑ノ執行及ヒ裁判費用徴収等ノ各條ハ明治十五年一月當省  
丁第五號達檢事處分第二表欄外ニ掲載アル執行以下各條ノ書例ニ據リ(舊法處斷ニ係  
ル者ハ實際執行ノ刑名ヲ掲ケ其下ノ人員ヲ記スルト書例ノ如シ)毎年一月ヨリ十二月  
マテ右ニ係ル人員及ヒ件數ヲ取調翌年二月マテニ差出スヘシ此旨相達候事

但十五年分ハ速ニ取調ニ差出スヘシ又昨年ノ處分表一同既ニ進達候分ハ更ニ取調ニ  
及ハス

○丁第拾五號 四月廿七日 大審院裁判所

明治八年第百四十八號公達海軍退隱令并ニ明治九年第九十九號公達陸軍恩給令ニ據リ



恩給ヲ有スル元軍人及其扶助料ヲ有スル寡婦孤兒罪ヲ犯シ公權剝奪若シハ停止ノ處分  
 ヲ受ケ並ニ該恩給ヲ有スル軍人ニシテ治罪法第二百七十三條ニ據リ公權停止ノ處分ヲ  
 受ケタル者アルキハ其都度直ニ大藏省ニ通知可致此旨相違候事 (但新法實施已後是  
 迄本文ノ處分ヲ受ケタル者有之候ハ、其旨直ニ大藏省ニ通知可致事

○丁第十六號 五月一日 大審院裁判所

各應每年六月三十一日現在員明細表別紙離形ニ準シ取願翌月十日限り可差出此旨相  
 違候事 (但明治十五年十二月三十一日現在員明細表別紙離形ニ準シ至急取調可差出事

用紙美濃野紙

離形

廳名明治何年 六月三十一日現在員明細表

官職	俸給	分課	位	動	氏名	何府 何縣種族
任奏判事						
任勅判事						

判事補	判事	任勅 檢事	任奏 檢事	檢事補	檢事補 <small>某警部</small>	書記	書記 <small>兼何等 官</small>	何等屬 <small>兼記書</small>
	○							○



何等出仕	御用掛 取扱	等外 何等出仕	雇仕	給仕	小使	總計
						何百圓
						○
						何人
						何人
						華族何人 士族何人 平民何人

取調心得

一 新任轉任昇等増俸免官等ハ辭令書ノ日付ニ係ハラス本人拜受ノ日ヲ以テ取捨スヘシ  
 一 明治十五年十二月三十一日現在員ハ本年一月第二號布告ヲ以テ裁判所ノ位置及區畫  
 改正ノ際舊廳ノ事務ヲ受ケ繼キタル廳ニテ取調フヘシ

一 始審判裁所本文廳内ニアル治安裁判所詰人員ハ其本文廳トモ各別表ニ取調フヘシ  
 一 甲廳ヨリ乙廳詰兼務ノ者乙廳ニ於テハ各欄内朱字ニテ記載スヘキ兼任檢事補等ノ記載方モ亦之ニ倣フ

一 俸給ハ總テ月給額ヲ記載スヘシ雇等ノ日給ハ一ヶ月(三十日)ニ積算シ其額ト日給額トヲ列載スヘシ

一 分課ハ雇員ニ至ル迄詳細ニ記載スヘシ尤豫メ主掌ヲ定メテ輪轉事務ヲ執ル向ハ分課欄内ニ其旨ヲ記載スヘシ

一 甲廳ヨリ乙廳詰命セラレ赴任セサルモノハ甲廳ニ於テ總計ノ次ハ一欄ヲ設ケ記載シ分課欄内ニ「某廳ニ赴任前」ト記載スヘシ乙廳ニ於テ在勤ノ通知ヲ得ルト雖モ其詳細ヲ記シ難キニ付總計次ニ官氏名及某廳ヨリ未着任ノ旨ヲ記載スヘシ

○丁第拾七號 四月三十日 大審院裁判所

明治十三年四月丁第七號達本省處務時限ノ儀ハ詮議之次第有之取消候條此旨相違候事  
 ○丁第拾八號 六月二十四日 大審院裁判所



義務ノ証書之某代理某ト代人ノ名ヲ以テ捺印結約シタル者ハ權利者ニ於テ此証書ヲ提  
供シ出訴スルニハ其本人ヲ相手取ル固ヨリ當然ナリト雖モ便宜ニ隨ヒ記名捺印シタル  
代人ヲ相手取ルヲアルモ必ス棄却スルヲ要セス他ノ本人又ハ代人ヲ引合人トシテ招換  
シ俱ニ之カ答辭ヲ爲サシメ被告者ノ義務ニ歸スルモハ被告ヲシテ負擔セシメ引合人ノ  
義務ニ歸スルニ於テハ引合人ヲシテ負擔セシムル様相當ノ裁判ヲ爲シ與フヘキ筋ニ有  
之候條豫テ心得モ可有之候得共爲念此旨相達候事

○丁第十九號 六月二十五日 大審院裁判所

福島縣須賀川第八國立銀行今般銀店申付ラシ大藏省ニ於テ國立銀行條例ニ據リ處分方  
取扱相成候ニ付テハ該銀行本支店又ハ出張所ニ對シ出訴候者ニシテ權理義務ニ付爭論  
無之者ハ直ニ同省ノ處分ニ歸セシムヘシ若シ爭論有之ニ於テハ其曲直ヲ裁判シ其執行  
ヲシテ同省ノ處分ニ歸セシムヘキ筋ニ候條心得此旨相達候事

○丁第貳拾號 七月一日 大審院裁判所

本年第二十二號公達ニ付驛遞局ニ於テ發賣相成候官報購入ノ部數左ノ通相定メ候條此

旨相達候事但購入金額ハ大審院東京控訴裁判所ヲ除キ各屬定額内ヲ以テ支拂ヘシ

大審院 四部 内一部會計課 控訴裁判所 四部 内一部同上

始審裁判所 三部 全上 同支廳 三部 全上

治安裁判所 二部 全上

○丁第貳拾壹號 七月五日 大審院裁判所

明治十四年十二月(第七十五號)公布西洋形船舶長運轉機關手免狀規則ニ據リ免狀ヲ有  
スル者罪ヲ犯シ輕罪以上ノ刑ニ處シタル節ハ刑名並ニ宣告ノ月日ヲ詳記シ其都度直ニ  
農商務省へ通牒スヘシ此旨相達候事

○丁第貳拾貳號 七月廿四日 大審院裁判所

布告布達施行期限ノ儀ニ付太政官ヨリ別紙ノ御達有之候條此旨相達候事

(別紙) 司法省

別紙内務省例へ朱書ノ通指令及ヒ候條爲心得此旨相達候事

明治十六年七月十七日 太政大臣三條實美



(別紙) 布告布達施行期限ノ儀ニ付伺

布告布達施行期限ノ儀ニ付別紙寫ノ通函館縣令時任爲基ヨリ伺出右奥尻郡ノ儀ハ本郡役所ヲ隔ツ一孤島コシテ冬春ニ至リテハ海路危險ノ爲メ航通相絶候次第モ有之趣ニ付實際他郡ト同視難致場所ト被存候條申出ノ通聞届候條致度別紙圖面一葉(略之)相添此段相伺候也

明治十六年六月廿一日

内務卿山田顯義

太政大臣三條實美殿

追テ本文御允可ノ上ハ以後他府縣ヨリ同様ノ儀申出候節ハ當省限リ取計候條致度添テ此段相伺候也

朱書

伺ノ通

但追書ノ趣ハ難聞届候事

明治十六年七月十六日

(別紙寫) 布告布達施行期限ノ儀ニ付伺

布告布達施行期限ノ儀今般第十七號布告ヲ以テ制定相成候處其第一條第四項ニ凡島地ハ所轄郡役所ニ到達ノ翌日ヨリ起算スト有之然ルニ尙管下久遠郡役所所轄奥尻郡ノ儀ハ本郡ヨリ十五海里ヲ隔テタル一孤島コシテ常ニ小艇ヲ浮ヘ往復ニ便スルヲ以テ晴朝順風ノ日ニ在テハ數時間コシテ達スルヲ得ルト雖モ偶風浪アルニ際シテハ數日阻滯スルヲモ往々有之殊ニ冬春ニ至リテハ海路危險ノ爲メ從來十一月ヨリ春彼岸マテハ航通相達候次第コト實際他郡ト同一視難致場所ニ付該島ニ限リ戶長役場ニ到達ノ翌日ヨリ起算候條仕度爲御參考別紙船路略圖(略之)相添此段相伺候也

明治十六年六月一日

函館縣令時任爲基

内務卿山田顯義殿

○丁第貳拾三號 九月廿一日 大審院裁判所

今般陸軍治罪法施行相成候ニ付左ノ通陸軍卿ヨリ照會有之候條爲心得此旨相達候事已決重罪囚其他判裁宣告ニ依リ軍籍ヲ脱シタル者ト雖モ犯罪之レ有レ時ハ舊慣ニ據リ



軍衛ニ於テ審判致來候處今般陸軍治罪法御頒布ニ付テハ特例アルモノヲ除ク外ハ軍衛  
ニ於テ審判シ得ヘカヲサル者ニ有之候間右已決囚ニシテ重輕罪ヲ犯ス者等有之候時ハ  
地方管轄裁判所ニ送付セシメ候間豫メ御達置相成度此段及御照會候也

陸軍卿代理

明治十六年九月十三日

參事院議長山縣有朋

司法卿大木喬任殿

追テ自今本文ノ如キ罪囚ハ悉ク地方監獄ニ交付ノ見込ニ有之候此段申添候也

○丁第貳拾四號 九月廿五日 大審院裁判所

布告布達施行期限ノ儀ニ付内務卿伺ニ對シ左ノ通御指令相成候趣ニ有之候條此旨相達  
候事

布告布達施行期限ノ儀ニ付伺

布告布達施行期限ノ儀ニ付島根縣令並ニ鹿兒島縣令ヨリ夫々別紙ノ通伺出（鹿兒島縣  
第二條ハ伺ノ通ト存候）何レモ絕海ノ島嶼ニシテ每島地ニ郡役所ノ設置無之內地又ハ

他島郡役所ヨリ管轄候儀ニテ他ノ郡制ト同一視難致場所ト被存候尤本件同様ノ儀ニ付  
テハ發ニ函館縣具狀ニ依リ經伺ノ上御許可相成候適例ニ有之旁此段相伺候條至急御裁  
可有之度候也

明治十六年八月二十日

内務卿山田顯義

太政大臣三條實美殿

御指令

伺ノ趣戸長役場到達ノ翌日ヨリ起算スル儀ト可相心得事

明治十六年九月十八日

別紙

布告布達施行期限ノ儀ニ付伺

布告布達施行期限制定ノ儀本年第十七號ヲ以テ公布候成候處右公布第一條中ニ凡ソ島  
地ハ所轄郡役所ニ到達ノ翌日ヨリ起算スト有之候處管下隠岐國海士知夫ノ兩郡ハ所轄  
郡役所ト隔海ノニ地ニテ數日間航海難相成事毎ニ有之候右兩郡ノ如キハ如何相心得可  
然或主怠何分ノ御指揮有之此度段相伺候也



明治十六年七月十四日

縣令境二郎代理

內務卿山田顯義殿

島根縣大書記官星野輝賢

布告並施行規則ノ備ニ付伺

第一條 本年五月第十七號布告ヲ以テ布告並施行期限制定セラレ候處其第一條第三項ニ凡島地ハ所轄郡役所ニ到達ノ翌日ヨリ起算スト有之本縣之儀ハ島嶼殊ニ多ク熊毛郡種子島歌渡郡屋久島等ハ海路數十里ヲ隔ツト雖モ每郡々役所ヲ設置シ難キヲ以テ在鹿兒島郡役所ニ於テ之レヲ所轄セシム又在知覽郡役所々轄川邊郡ノ十島即チ硫黃島竹島黑島口之島臥蛇島平島中ノ島惡石島諏訪ノ瀬島寶島及ヒ在大島郡役所々轄德喜界沖水良郡與論ノ四島ノ如キハ皆ナ郡役所々在地ヲ距ル遠キハ七十里近キモ拾里ヲ隔テ各所ニ碁布シ又在川内郡役所々轄甌島郡ノ儀モ陸地ヲ距ル殆ト拾里出水郡長島モ亦々絶海ノ嶋地ニシテ往復不便ノ地ニ有之故ニ前顯ノ如ク施行期限ヲ算起スルニ所轄郡役所到達ノ翌日ヨリスルモ未タ法律ノ該地ニ達セサルニ早ク既ニ實施ノ日トナリ若シ他日之ヲ論スルニ當テハ恰モ律法ノ既往ニ遡ルカ如キ姿ニ相成島民等ノ不幸實ニ難默止

儀ト存ラレ候條右大島郡大島ヲ除ク其他ノ島地ハ到達ノ日數ヲ定メ現ニ該島戶長役場ニ到達ノ翌日ヨリ起算シ可然哉

第二條 凡島地ハ所轄郡役所ニ到達ノ翌日ヨリ起算スト有之候ニ付其到達日數無論定メサル儀ト心得可然哉右兩條相伺候條至急何分ノ御指揮相成度此段相伺候也

明治十六年七月十四日

鹿兒嶋縣令渡邊千秋

內務卿山田顯義殿

○丁第貳拾五號 九月廿六日 大審院裁判所

陸軍恩給令ニ據リ恩給ヲ有スル者及ヒ扶助料ヲ受ル寡婦孤兒罪ヲ犯シ公權剝奪ノ處分ヲ爲スルハ恩給登錄寫帖ヲ收奪シ宣告文ノ寫相添其都度速ニ當省ニ差出ス可シ此旨相達候事

○丁第貳拾六號 九月廿八日 始審裁判所

豫審事件中被告人ノ屬籍氏名等分明ナラスニテ豫審終結ノ言渡ヲ爲ス能ハサル場合ニ於テ期滿免除ニ至ル迄猶ホ豫審判事ノ手ニ留置シモノハ通常ノ未決件數ト混淆セサル

司法省丁之部

〇二百八十九



爲ノ明治十四年丁第三拾四號達第二號豫審既決未決事件表中未濟ノ下及ヒ明治十五年ノ丁第五號達豫審第一表末段ニ於テ(豫審中止)ノ一區ヲ設ケ其件數ノミヲ記入スヘシ此旨相達候事

○丁第貳拾七號 十月十三日 裁判所

明治十四年當省丁第八號ヲ以テ後備軍編入ノ者郷里ニ在テ罪ヲ犯シタル者ハ所轄鎮臺營所ニ照會致ヌ可キ旨相達置候處今般陸軍卿ヨリ照會ノ越有之候ニ付右達ハ取消候條此旨相達候事

○丁第貳拾八號 十月廿二日 裁判所

重輕罪登記簿ノ綴ニ付テハ明治十五年丁第三拾壹號并同年丁第六拾號ヲ以テ相達置候處猶ホ一層注意ノ爲メ左ノ通り登記簿徴收箇條并取扱順序増補候條自今右ニ準シ各表式ノ材料ニ適應スヘキ様鄭重ニ記載スヘシ此旨相達候事

重輕罪登記簿書例并取扱順序

重輕罪公判登記簿徴集箇條書

此ニ載スル各條ハ明治十五年丁第六拾號箇條書ノ追加ナルカ故ニ兩書共ニ對照參酌スヘキモノトス

### 第一條

登記簿ハ言渡ノ度毎ニ必大調成スヘシ妄トシ其機ヲ失シ上告後大審院等ニ騰寫ヲ要スル如キ繁雜ヲ生スルヲ勿レ(言渡アル毎ニ必大記載ヲ確定マテ待ツ可クナス)  
重罪裁判所ノ處斷ニ係ル輕罪已下ノ者ハ輕罪ノ簿式ニ準シ別冊ト爲シ其應ノ本簿ニ屬スヘシ(此輕罪已下ノ者ハ單ニ輕罪已下ニ係ル者ニ限リテ重罪ヲ減シテ輕罪トナリタル者ニ非ス若シ重罪ヲ減シテ輕罪トナリタル者ハ重罪ノ簿札ニ登記スルモノトス) 輕罪裁判所ノ處斷ニ係ル違警罪モ又同シ  
重罪ニ係ル者法律上減輕ニ因リ輕罪裁判所ノ管轄ニ屬シタル時ト雖モ亦重罪登記簿ニ錄シ別冊ト爲シ其應ノ本簿ニ屬スヘシ(明治十五年當省丁第四十五號達參看)  
諸刑則等ニ係ル者(明治十五年丁第六拾號達箇條書第四條參看)ハ別冊ヲ調成スヘキ者ニ付若シ重罪及輕罪ニ附帶シ又ハ俱發シテ犯則者モ亦別ニ調成スヘシ唯ニ重輕罪ノ簿



札ニ合職シ犯則簿札ヲ省察ス可ラス必ス兩簿ヲ調成シ其犯則簿中受理欄内ニ重罪簿  
札何號ト同伴同人ナルヲ附記スヘシ

各簿札ノ番號ハ毎年一月始メテ公判言渡ニ係ル者ヲ以テ第壹號ト爲シ各簿次ヲ逐テ其  
年十二月最終ノ言渡マテ繼續スヘキ者トス故ニ重罪簿ニ在テ三箇月ヲ、蒐集進達スルニ  
方リ一月ヨリ三月マテノ分ニシテ假令ハ壹號ヨリ千八拾三號ニ至ル時ハ其次四月分ノ  
首號ハ千八拾四號トナルヲ例トス總テ各枚各號即チ每人其號ヲ各別ニ記シ此最終ノ番  
號ヲ以テ其年裁判言渡人員ノ全數ニ應スヘキ者トス但件數記載方（徵集箇條書第貳條  
參看）ト混ス可ラス

若シ各廳ノ受理又ハ各掛ヘ相當等ノ順序ニ依ル記號ノ如キハ各簿欄外適宜ノ邊ニ記ス  
ルモ亦妨ケナシ

簿札圖式ノ說明ハ從前違書（明治十五年丁第三拾壹號中登記簿書例及同年丁第六拾號  
箇條書第拾條）中ニ在リト雖モ往々料紙ノ大小及各欄ノ位地等大差違アリテ照査上不  
便ナレハ將來ハ成ルヘク本省印刷ノ料紙ヲ用ヒ又ハ之ニ準據スヘシ

若シ受理スト雖モ言渡前コシテ翌年ニ廻スヘキ未決ノ者アル時ハ年末簿冊進達ノ際左  
ノ箇條ニ準シ別紙ニ書シ共ニ差出スヘキ者トス

何年十二月三十一日調

未決（件數 若干）（人員 若干）

第二條

犯罪欄内ニハ刑法各條若クハ何項何截ト記スルノ外尙ホ犯罪ノ性質ヲ簡明ニ記スヘシ  
今姑ク重罪登記簿ニ就テ本欄ノ一例ヲ左ニ示ス輕罪モ亦之ニ準スヘシ（十五年丁第三  
拾壹號違重罪第一表第一欄書例參看）

以下文中「」ノ印ハ朱書

犯「明治十五年」年「一」月「二」日

「何」始審裁判所管内ニテ

刑法「第四百四」條ノ罪ヲ犯ス

「火」ヲ放テ廢屋ヲ燒毀ス



罪「若シハ刑法第三百六拾六條俱發」

前條火ヲ放云々ハ處斷ニ係ル正條ニシテ若シハ刑法云々ハ俱發アリシ時ノ例トス俱發ニ係ル刑法云々ノ文字ハ犯罪ノ本文ヨリ二字闕字スヘシ尤モ言渡ノ欄ト照應スヘキ者ナルカ故ニ殊ニ注意シテ實際ノ事由ヲ記スヘシ(次ニ舉ル登記簿犯罪ノ欄米書參看)此他若シ被告人中尊屬ノ卑幼ニ對シ卑幼ノ尊屬ニ對スルノ類子ト孫トノ混雜ヲ防キ祖父ト祖母ト父ト母トノ混合ヲ防キ又ハ成ルヘク養父及養母ヲ區別シ徒ニ祖父母及父母又ハ子孫ト一筆ニ記スルコトナク且養實父ノ混雜等ヲ爲ス勿レ(刑法第十章親屬例參看)

第三條

受理欄内ハ重罪ニ在テハ豫審判事ノ判決會議局ノ判決(治罪法第三百七拾二條ノ一項ヲ區分)大審院ノ判決(同二項)輕罪ハ檢察官云々豫審判事ノ判決會議局ノ判決(治罪法第三百四拾七條第一項)大審院ノ判決ヲ區別記載シ又ハ訟廷内ノ犯罪ヲ區分スヘシ又大審院ニ於テ他廳ノ言渡ヲ破毀シ本廳ニ移サレタル件及管轄ノ訴コ因リ之ヲ定タル件ノ如キ大審院ノ判決ノ下ニ(破毀ノ上又ハ管轄ノ爲トカ)其事由ヲ簡略ニ附記スヘシ

又他廳ヨリ囑託アリタル時ハ定式ノ外何廳何々ヨリ囑託ノ事ヲ簡單ニ附記スヘシ假令ハ何年月日何裁判所ニテ檢察官云々ニ因リ受理ノ後何年月日本廳ニ囑託ト記スヘシ但本件ノ如キハ之ヲ囑託シタル廳ヨテハ登記セシ其全部ノ囑託ヲ受ケタル廳ニヲ記スヘキ者トス一部ノ囑託ニ止ル者ハ此限ニ非ス(一部分或ハ若シ宣告書ノミノ委託ヲ受ケタル類アルモ記スルコ及ハス凡テ此類ハ原廳ニ在テ記スヘキ者トス)

此欄ニ於テハ明治十五年丁第六拾號箇條書第二條ニ照シ同伴ノ記載ニ注意シ件數ヲ明晰スヘシ

一年間一人コシテ數回言渡ヲ受ケル者モ亦前何號同人ト記ス(第四條及五條説明參看)又一件五人アリ内三人ハ豫審判事ノ判決ニ因リ内二人ハ故障アリテ後會議局ノ判決ニ因ルカ如キ固ヨリ同一ノ件ナリト雖モ必ス實際ニ從ヒ之ヲ分テ次ニ舉ルヘキ受理ノ欄ニ於テ前何號ト同伴ナルヲ記スヘシ唯前ノ一方ニ合載シ次ノ一方ヲ省察スル勿レ又此欄ノ末ニ裁判時間ヲ計算登記スヘシ即チ欄中年月日ヨリ言渡ノ欄年月日マテヲ通算シ假令ハ言渡マテ一箇月何日又ハ一年何箇月ト書スルノ類ナリ



第四條

前科欄内ハ罪名ヲ略記シ及刑ノ言渡ハ勿論無罪或ハ免訴又ハ一年間言渡ノ重複ニ係ル者ニ至ルマテ既ニ裁判ヲ經由セシ者ハ悉ク其年月日ニ從ヒ舉ル者トス前科ノ言渡ニ對シ上訴セシ者ハ上訴年月日ヲ遺漏スル勿レ若シ再度ノ上訴アリシ者ノ如キハ前科ニ對スル言渡ノ次ニ上訴年月日ヲ附シ再ヒ後ノ上訴項内ニ記スヘシ

第五條

言渡欄内ハ言渡ノ事實ニ從ヒ刑名及其期限金額附加刑等ヲ舉ク是亦犯罪及前科年齢等ト照應スヘキ者トス故ニ加重若クハ減輕ノ事由等尤明瞭ナルヲ要ス假令ハ刑法第九拾壹條(九二)ニ該ルヲ以テ一等加刑法第八拾五條(八六)又ハ第八拾九條ニ據リ何等減ト書スルヲ例トス

若シ數罪俱發等ノ者ニシテ既ニ犯罪欄内ニ於テ刑法ノ各條ヲ列載セシ者アル時ハ此欄刑名ノ肩書ニ刑法ノ條目ヲ附シ前各條中何條ニ因テ處斷セシヲ示スヘシ  
若シ管轄違治罪法第二百七拾五條豫審判事ニ送付スル言渡及罪ヲ論セス懲治場ニ留置

ナル如キ遺漏ス可ラス

又附加刑ヲ受ケシ者ハ監視ノ期限罰金ノ員數沒收物品ノ如キモ亦之ヲ區別記載スヘシ  
又被告人ノ死去及被害者ノ棄權等總テ消滅セシ者ノ類ハ此欄内ニ類別シテ略記スヘシ  
又對審問席ノ區分ノ如キ脱漏セサルヲ要ス今本欄ノ一例ヲ左ニ示ス(次ノ簿札言渡欄書例參看)

「何」年「何」月「何」日「對審(若クハ問席)」

言 重禁錮何年 刑法第八拾壹條

渡 「附加罰金何圓」又「刑法第九拾二」  
沒收何々(條ニ依リ一等加)

若シ一罪前ニ發シ己ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ等シキハ之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之ヲ論セ云々(刑法第百二條)又ハ囚徒逃走(刑法第百四拾二條)及百四十四條ノ類ニシテ本年言渡ノ重複ニ係ル者ハ注意シ其事由ヲ簡明ニ附記スルヲ要ス(其一年間重複ニ係ル者ハ受理又ハ前科欄内ノ記載ニ注意スヘシ同上各欄參看)  
前條ニ係ル者ニ就キ言渡欄内ノ一例ヲ左ニ示ス



「何」年「何」月「何」日 「對審」

言 「重禁錮何年」 「(餘罪)」

「罰 金何圓」 「(同)」

渡 監 視何月 「(同)」

「前」何年月日重禁錮何年罰金何圓監視何月ノ  
言渡アリクルヲ以テ前後通算シ餘罪ヲ科ス」

「又前」云々ノ處輕キヨリ論セス  
若クハ等キヨリ論セス」

此他舊法ニ從テ處斷セシ類ハ十五年六拾號箇條書第三條ニ照スヘシ

### 第六條

男女氏名欄内ハ既ニ簿式ニ掲載アル各目ニ照シ記スヘシ

又一年間一人数回處斷ヲ經シ者ハ必ス氏名ノ傍ニ前何號同人ト附記スヘシ若シ其一人  
前回ニ於テ氏名ヲ詐稱シ次回ニ發覺セシ者ハ次回ノ簿中氏名ノ傍前何號同人前ハ偽名  
ト附記スヘシ

### 第七條

重罪及輕罪登記簿教育年齢以下各欄内ノ書例ハ渾テ明治十五年丁第三拾一號登記簿中  
朱書ノ例ニ依ル尤モ職業區分ノ如キ同號中重罪公判第九表第一欄ノ書例ニ據リ記スル  
ヲ要ス

### 第八條

謀故殺及放火犯罪ノ因由欄内モ亦十五年丁第三十壹號中重罪公判第十二表第一欄ノ書  
例ヲ參看シ務メテ簡明ニ事由ヲ記スヘシ

此以下犯罪ノ成果ニ在テハ重罪公判第十二表第三欄使用器具ハ同第四欄書例ヲ參看ス  
ヘシ

右各條ノ外若シ常例ニ準シ難キ者アル時ハ適宜ノ欄内又ハ欄外ニ其事由ヲ附記スヘシ

「何重罪裁判所(又ハ輕罪)」

重	「何」年「何」月 「何」日	「何」年「何」月 「何」日
犯	「何」始審裁判 所管内ニテ	「豫審判事」ノ判 決ニ因リ
	受	前

官給給書

司法省丁之部



「何」年「何」月「何」日「對審」 「輕懲役何年」 言「第五條各項參看」		刑罰第「三百」 條ノ罪ヲ犯ス 「人」ヲ毆打創傷ハ兩 肢ヲ折リ篤疾ニ致 ス 「若シハ」第三百二十 六條俱發 「第三百五十 五條俱發」	
「何」年「何」月「何」日「對審」 「輕懲役何年」 言「第五條各項參看」	男氏名 「何」族 女氏名 族	犯時已未 婚子ノ有 無 「何」誰妻子 ナシ	理
「何」年「何」月「何」日「對審」 「輕懲役何年」 言「第五條各項參看」	「何」族 女氏名 族	「文」 「犯時」年齡 「廿五年」 「犯時職業」 「銀治」	科 「第四條及五條說明參看」
「何」年「何」月「何」日「對審」 「輕懲役何年」 言「第五條各項參看」	「何」族 女氏名 族	「何」始審裁判 所管內 國「何」(町村) 現住「何」始審裁判 ノ地所 國「何」(町村)	前ノ言渡ニ付テノ上訴 年月日

「何」年「何」月「何」日「對審」 「輕懲役何年」 言「第五條各項參看」	「何」年「何」月「何」日「對審」 「輕懲役何年」 言「第五條各項參看」	「何」年「何」月「何」日「對審」 「輕懲役何年」 言「第五條各項參看」	「何」年「何」月「何」日「對審」 「輕懲役何年」 言「第五條各項參看」
「何」年「何」月「何」日「對審」 「輕懲役何年」 言「第五條各項參看」	「何」年「何」月「何」日「對審」 「輕懲役何年」 言「第五條各項參看」	「何」年「何」月「何」日「對審」 「輕懲役何年」 言「第五條各項參看」	「何」年「何」月「何」日「對審」 「輕懲役何年」 言「第五條各項參看」
「何」年「何」月「何」日「對審」 「輕懲役何年」 言「第五條各項參看」	「何」年「何」月「何」日「對審」 「輕懲役何年」 言「第五條各項參看」	「何」年「何」月「何」日「對審」 「輕懲役何年」 言「第五條各項參看」	「何」年「何」月「何」日「對審」 「輕懲役何年」 言「第五條各項參看」
「何」年「何」月「何」日「對審」 「輕懲役何年」 言「第五條各項參看」	「何」年「何」月「何」日「對審」 「輕懲役何年」 言「第五條各項參看」	「何」年「何」月「何」日「對審」 「輕懲役何年」 言「第五條各項參看」	「何」年「何」月「何」日「對審」 「輕懲役何年」 言「第五條各項參看」



號	証人等 ノ人員 「証人 三人」	「何」年「何」月「何」日 對審 「何」日 重禁錮何年 刑法第 條末項ニ依 リ一等減 「附加 罰金何圓 監視何年」	男氏名 「何」族 女氏名 族	犯時已未 婚子ノ有 無 「何」誰妻 ナシ	「文」 教 字 「十五 年 十一月」	生國 「何」 始審裁判 所管内 國何 村町	現住ノ地 「何」 始審裁判 所管内 國何 村町	犯時 住地 「何」 始審裁判 所管内 國何 村町	犯罪ノ因由ト認知ノ條 度ノ知 「小作人」	犯罪ノ 果成	使用器物
	上訴 年月日	「何」被告ノ科セシ 金 「何」圓何錢 「一」官「一」テ 「擔當セシ 給與セシ 金」	「何」誰妻 ナシ	犯時年齡 「十五 年 十一月」	「何」 始審裁判 所管内 國何 村町	「何」 始審裁判 所管内 國何 村町	「何」 始審裁判 所管内 國何 村町	「何」 始審裁判 所管内 國何 村町	「何」 始審裁判 所管内 國何 村町		

登記簿取扱順序  
自今左ノ箇條ニ準テ取調ノ手續ヲ爲スヘシ

「掛判事又ハ補  
氏名  
表紀掛書記ノ認印」

- 一 登記簿原本ハ言渡アル毎ニ公判掛ノ書記コ於テ必ス其機ヲ失ハス該件ニ係ル被告人  
毎ニ一枚ヲ調成シ之ヲ表紀掛ノ書記ニ交附スヘシ（箇條書增補第一條第一項參看）
- 一 表紀掛ニ於テ簿札ヲ交收スル時ハ其時日ニ從テ其番號ヲ附シ渾テ各欄ノ記載ヲ調査  
シ若シ錯誤ト認ムヘキ者アルモ妄ニ變更修飾ヲ加フルコトナク勉メテ實際ノ事由ヲ舉  
クヘシ若シ犯罪及言渡欄ト對シ難キ者アル時ハ主任判事若シハ判事補ニ質スヘシ
- 一 調査終了ノ分ヨリ之ヲ謄寫シ謄寫スルニ從ヒ每葉欄外ニ掛判事或ハ判事補（掛二人  
以上ナレハ裁判長一名）ノ姓名ヲ記シ表紀掛ノ書記認印スヘシ
- 一 重罪ハ三箇月輕罪ハ二箇月ツ、一冊トシテ進達ノ手續ヲナスヘシ
- 一 簿冊進達前裁判所長コ於テ之ヲ通覽シ若シ連月又ハ連年ノ間被告人ノ増減ニ於テ  
大差ヲ生シタル時其地方ノ景況即チ豐凶若クハ貿易ノ繁閑若クハ天災等ヨリ其増減  
ノ起因スルト認ムル者アレハ簡明ニ其理由ヲ具狀スルコト明治十四年十二月第三十四  
號運表式欄外朱書ノ例ニ依ルヘシ

○丁第貳拾九號 十月二十三日 大審院裁判所



布告布達施行期限ノ儀ニ付太政官ヨリ左ノ通御達有之候條此旨相達候事

司 法 省

別紙内務省伺へ朱書ノ通指令ニ及ヒ候條爲心得此旨相達候事

明治十六年十月十二日

太政大臣三條實美

(別紙) 布告布達施行期限ノ儀ニ付伺

布告布達施行期限ノ儀ニ付山形縣令折田平内ヨリ別紙ノ通伺出候處該飛嶋三村ノ儀陸地ヲ去テ十餘里以外ノ北海ニ孤在スル一小嶋嶼ニシテ其往復ハ小船ニシテ外無之故ヲ以テ風浪危險ノ場合ニ在テハ爲メニ通航數十日間モ相絶候事往々有之趣ニ付ハ實際他ノ郡村ト同視難相成ハ彙ニ函館縣伺ニ對シ御允許ノ儀ト同様ニ相考候間該嶋ニ限リ申出ノ通開届候様致度依テ別紙寫并ニ略圖添此段相伺候條至急仰御裁決候也

明治十六年九月十三日

内務卿山田顯義

太政大臣三條實美殿

(朱書)伺之通

明治十六年十月十二日

(別紙寫) 布告布達施行期限ノ儀ニ付伺

布告布達施行期限ノ儀本年第拾七號ヲ以テ公布相成候處管下飽海郡役所所轄飛島浦村勝浦村法木村三ヶ村ノ如キハ該郡役所ヨリ陸路吹浦村ニ至リ同所ヨリ海上十一里(三十六丁一里)ヲ隔テ北海ニ孤立スル一小島ニテ小船ニ依リ往復致候事故季候ニ寄風浪ノ爲メ數十日通航相絶候儀モ往々有之布告布達期限内ニ施行難相成候間該戶長役場ニ到達ノ翌日ヨリ起算シ施行セシメ候様致度略圖(略之)相添此段相伺候條何分ノ御指揮有之度候也

明治十六年八月十一日

山形縣令折田平内

内務卿山田顯義殿

○丁第三拾號 十月二十六日

布告布達施行期限ノ儀ハ本年第拾七號公布ノ旨モ有之候處沖繩縣之儀ハ該縣到達ノ翌日ヨリ十二日ヲ以テ施行期限トナシ且該縣管内那覇役所所轄ノ伊平屋嶋其他二島八重



山島役所所轄ノ與那國島其他壹島并ニ宮古島役所所轄ノ多良間島之六島ハ該島到達ノ翌日ヨリ施行期限起算ノ儀該縣令ヨリ其筋ニ開申有之御開置相成候旨通牒有之候條此旨相違候事

○丁第三拾壹號 十一月五日 裁判所

保釋責付ヲ得タル被告人ハ左ノ取締條件ニ服從セシム可キ儀ニ付キ保釋責付ヲ爲スノ際其旨ヲ被告人ニ豫知セシム可シ但其言渡書ノ紙尾ニ記載印刷スルモ妨ケナシ

第一條 治罪法第二十一條ニ從ヒ假住所ヲ定メ届置シ可キコトハ言ヲ待タス其裁判所ノ管轄地外ニ旅行スチコトヲ得ス若シ已ムヲ得サル事由アルキハ其旨ヲ檢事ニ申立テ許可ヲ受ク可シ

第二條 裁判所ノ管轄地内ト雖モ住所外ニ於テ一泊以上滞在スルキハ滞在ノ場所ヲ其家族又ハ同居人ニ通知シ置ク可シ

若シ同居人アアサルキハ其住所ノ地ノ戸長ニ届置ク可シ

第三條 代官人辨護人又ハ代人トシテ法廷ニ出頭シ其他議會集會等公然ノ場所ニ參會

スルコトヲ得ス

第四條 治罪法第二百一十一條ニ適當ナル者及ヒ前數條ノ規則ニ背キタル者ハ治罪法第二百六條第二項ニ從ヒ保釋ヲ取消ス可シ其責付ヲ受ケタル者モ亦同シ

右相違候事

○丁第三拾貳號 十一月八日 大審院裁判所

華族ノ輩(位記ノ有無且戸主隱居子弟ニ拘ハラヌ)罪ヲ犯シ拘留シタル時ハ自今其院裁判所ヨリ直ニ宮内省ニ通牒シ猶刑ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其宣告書ノ謄本ヲ添ヘ是亦同標速ニ可致通牒此旨相違候事

○丁第三拾三號 十一月十六日 大審院裁判所

本年第三拾九號ヲ以テ刑法附則第四拾九條改正ノ儀公布相成候コト付テハ各管内ニ於テ專ラ實際消費スル費額ヲ量定シ豫メ金額ノ程限ヲ設ケ速ニ當省ニ可伺出此旨相違候事

○丁第三拾四號 十一月三十日 大審院裁判所

官令

司法省丁之部



別紙内務省伺へ朱書ノ通指令ニ及ヒ候條爲心得此旨相達候事

明治十六年十一月二十二日

太政大臣三條實美

(別紙) 布告布達施行期限ノ儀ニ付伺

布告布達施行期限ノ儀ニ付別紙寫ノ通山口縣ヨリ伺出右取調候處本年七月十七日伺齊函館縣管下奥尻郡一孤島ノ狀況ト均一ニ相見へ實際無餘儀被存候間該島ニ限り申出ノ通聞届候様致度圖面相添此段相伺候也

明治十六年十月十六日

内務卿山田顯義

太政大臣三條實美殿

(朱書) 伺之通

明治十六年十一月二十二日

(別紙寫) 布告布達施行期限ノ儀ニ付伺

本年第十七號布告ヲ以テ布告布達施行期限制定相成凡島地ハ所轄郡役所ニ到達ノ翌日

ヨリ起算スヘキ筋ニ有之候處本縣下見島郡ノ儀ハ北海中ノ一孤島ニシテ其地價戸數ノ僅少ナルヲ以テ郡區編制ノ節阿武郡ト合併シ役所ヲ同郡萩地ニ設置セリ然ルニ本地ヨリ海路十八里ヲ隔テ常ニ渡航自由ナラス殊ニ秋冬ノ氣節ニ向ヘハ風波ノ平穩ヲ虞リ幸ニ航船候都合ニ付數日間航行相絶候場合モ有之實際期日ヲ限り航行不相成右ハ他郡ト難同視場所ニ候間何卒該島ニ限リ戶長役場へ到達ノ翌日ヨリ起算候様御特許相成度別紙繪圖面相添(略之)此段相伺候也

山口縣令代理

明治十六年九月十七日

山口縣大書記官近藤幸正

内務卿山田顯義殿

○丁第三拾五號 十二月十二日 大審院裁判所

明治十四年本省丁第七號達ニ依リ任拂フヘキ費用ハ帳簿ノ寫取若シハ取寄方ヲ請願シタル者ヨリ徵收シ若又請願者ナシ裁判所ノ見込ヲ以テ寫取候ハ原告人ヨリ取立其寫取若シハ差廻ヲ爲シタル役所へ差送ルヘキ儀ト可心得此旨相達候事



○丁第三拾六號 十二月十一日 大審院裁判所

布告布達施行期限ハ豫テ公布相成居候處新潟縣下越後國岩船郡ニ屬スル粟生島浦ノ儀  
ハ北海ノ一孤等ニシテ他ト同視難致場合モ有之ニ付其筋ヨリ該島ニ限リ戶長役場ヘ到  
達ノ日ヨリ施行期限起算致度トノ伺ニ對シ御聞届相成候旨太政官ヨリ被達候條此旨相  
達候事

○丁第三拾七號 十二月廿二日 大審院裁判所

明治十四年當省丁第三拾四號違治罪法表式第二號豫審既決未決事件表裏面記載例第二  
項左ノ通改正候條自今右ニ準シ調成スヘシ此旨相達候事

既濟未濟日數二月以上ノ者アラハ二月以上三月未滿三月以上六月未滿六月以上一年未  
滿ト記スヘシ其一年以上ニ及フ者ハ一年毎ニ區別シテ記入シ未濟三月以上ニ及フ者ハ  
其理由ヲ説明スヘキ者トス以下各表之ニ準ス但豫審中止ノ分ハ其總件數ヲ記スルニ止  
マリ中止日數ヲ區別記入スルニ及ハス

○丁第三拾八號 十二月廿三日 大審院裁判所

大阪府下第二十六國立銀行今般鎖店被申付大瀨省ニ於テ國立銀行條例ニ據リ處分方取  
扱相成候ニ付テハ該銀行本支店又ハ出張所ニ對シ訴訟中ノ者並ニ自今出訴ノ者有之候  
ハ、本年當省丁第十九號違ニ準シ可致處分筋ニ候條爲心得此旨相達候事

○丁第三拾九號 十二月廿八日 大審院裁判所

本年第三拾五號布告ヲ以テ明治十五年第三拾九號布告被廢候ニ付同年當省丁第四拾貳  
號達ハ自然消滅ノ處今般内務卿ヨリ更ニ照會ノ趣モ有之候條同省ヘ通牒方從前ノ通り  
可取計此旨相達候事

○丁第四拾號 十二月廿八日 裁判所

民刑事各表并登記簿等進達ノ際爾後左ノ書例ニ準シ必ス目錄ヲ添フヘシ此旨相達候事  
但民事訴訟表添書目錄モ亦左ノ如ク改正ス

達各表並登記簿進達目錄凡例

一登記簿並輕罪既決未決事件表ハ每季分チ其翌月中ニ進達スヘシ其他諸表ハ其進達期  
限ニ從フヘシ若シ己ムヲ得サル事故アリテ其期限ニ進達スルニ能ハサルハ其事由



ヲ具シ期限ヲ豫定シテ延期ヲ請フヘシ

一治安裁判所ノ登記簿其他左ノ各目録ニ掲クル諸表ハ各本廳管内治安廳ノ分ヲ取纏メ

一同ニ進達スヘシ又各支廳ニ於テモ亦其管内治安廳ノ分ヲ取纏メ直ニ進達スヘシ

但シ刑事既決未決事件表ハ従前ノ手續ニ従フ

一登記簿ハ一冊毎ニ其表適宜ノ場所ニ於テ其簿冊ノ紙數何枚及件數何件ト記載スヘシ

民事訴訟表上申目録

何(裁判所支廳)分

一何年分 民事訴訟表(第壹表第貳表)

何枚

一同上 控訴并郡區戶長ノ職務ニ對スル民事訴訟表

全

計何枚

但控訴裁判所民事訴訟表ハ明治十年丁

第二十一號達訴訟表上申書ノ例ニ因ル

何治安裁判所分

一何年分 民事訴訟表

何枚

一同上 勸解表

全

計何枚

合計何枚

(右ノ内記載スヘキ事件ナキハ其廳何々ノ表ハ記載スヘキ事件之レナキヲ以テ欠ト適宜ノ所ニ記載スヘシ)

但延期中ノ者モ其旨記載スヘシ

右目録ノ通及進達候也

年月日

何(裁判所支廳)長(官氏名)印

重輕罪登記簿上申目録(違警罪アレハ輕罪ノ次ニ掲クヘシ以下同シ)

何(裁判所支廳)分

一(自何月至何月) 重罪登記簿

何冊

一同上 輕罪登記簿

全

一同上 諸刑則登記簿

全



一同 上 遲不參登記簿

全

計何冊

何治安裁判所分

一(自何月至何月) 輕罪登記簿

何冊

一同 上 諸罰則登記簿

全

一同 上 遲不參登記簿

全

計何冊

合計何冊

(右ノ内記載スヘキ事件ナキハ其應何々ノ表ハ記載スヘキ事件ナキヲ以テ欠之ト適宜ノ處ニ記載スヘシ以下總テ做之)

但シ延期中ノ者モ其旨記載スヘシ

右目錄ノ通及進達候也

年月日

何(裁判所支廳)長(官氏名)印

民事既決未決件數表上申目錄

何(裁判所支廳)分

一(自何月至何月) 民事既決未決件數表

何枚

一同上 民事身代限件數表

全

一同上 民事執行件數表

全

一同上 民事控訴既決未決件數表

全

一同上 人民ヨリ院省府縣ニ對スル訴訟既決未決件數表

全

一同上 人民ヨリ郡區戶長ノ職務ニ對スル訴訟件數表

全

合何枚

何治安裁判所分

一何年(何月至何月) 民事既決未決件數表

何枚

一同上 民事身代限件數表

全

一同上 民事執行件數表

全

一同上 勸解件數表

全



合表枚

右目錄ノ通及進達候也

年月日

何(裁判所支廳)長(官氏名)印

一 刑事ニ係ル既決未決事件表ハ裁判所本支廳毎ニ輕罪豫審既決未決事件表及管内違警罪既決未決事件表ヲ合シ各一冊トナシ其簿冊編纂ノ順序ハ左ノ如クスヘシ

第一 本廳輕罪及豫審既決未決事件表

同廳管内違警罪既決未決事件表

第二 支廳警罪及豫審既決未決事件表

同廳管内違警罪既決未決事件表

但シ分署ノ違警罪既決未決事件表ハ其本署ノ次ニ付ス可シ

右目錄ノ例

(自何月至何月)管内各輕罪裁判所輕罪豫審及違警罪既決未決事件表上申目錄

一 何始審裁判所分

一冊

一 何支廳分

全

、  
、  
、

全

一 何始審裁判所分

全

一 何支廳分

全

、  
、  
、

全

以下之レニ準ス

合何冊

右目錄ノ通及進達候也

年月日

何控訴裁判所  
檢事長氏名印

重罪既決事件表上申目錄

一 (自何月至何月) 何重罪裁判所重罪既決事件表

一枚

一同上 何重罪裁判所重罪既決事件表

一枚

以下之レニ準ス

合何枚

右目錄ノ通及進達候也



年月日

何控訴裁判所  
檢事長氏名印

別號表附帶私訴公判表會議局故障事件表上申目錄  
何(裁判所支廳)分

一何年分 別號表

何枚

一同上 附帶私訴公判表

全

一同上 會議局故障事件表

全

(治安裁判所モ之レニ準ス)

合 何枚

右目錄ノ通及進達候也

年月日

何(裁判所支廳)長(官氏名)印

檢事及豫審處分表上申目錄

何(裁判所支廳)分

一何年分 檢事處分表(自第一表至三表)

何枚

檢事處分表第二表欄外左ノ件

一同上 搜查及逮捕件數

一同上 執行人員(死刑以下拘留科料等ニ至ル)

一同上 裁判費用徵收件數

一同上 沒收物品徵收件數

一同上 同 處分件數

一同上 豫審表(自一表至八表)

一同上 豫審第一表欄外附屬表

(治安裁判所モ之レニ準ス)

合 何枚

右目錄ノ通及進達候也

年月日

何(裁判所支廳)長(又ハ檢事)氏名印

重罪既表犯罪表上申目錄

一(自何月至何月) 重罪裁判所重罪既決犯罪表

何枚

右目錄ノ通及進達候也



年月日

何裁判所

輕罪既決犯罪表上申目錄

一(何年何月分) 何始審裁判所輕罪既決犯罪表

何冊

一同 上 何治安裁判所輕罪既決犯罪表

全

合 何冊

一同 上 何支廳輕罪既決犯罪表

何冊

一同 上 何治安裁判所輕罪既決犯罪表

全

合 何冊

右目錄ノ通及進達候也

年月日

何裁判所

集會條例新聞條例及刑法犯者表上申目錄

一何年(自何月至何月) 何始審裁判所分

何枚

一同 上 何治安裁判所分

全

合 何枚

一同 上 何支廳分

何枚

一同 上 何治安裁判所分

全

合 何枚

(犯者之ノナキ向ハ其旨届出ツヘシ)

右目錄ノ通及進達候也

年月日

何裁判所

特赦表上申目錄

何(始審裁判所支廳)分

一何年分 特赦表

何枚

(記載スヘキ事件無之向ハ其旨届出ツヘシ)

右目錄ノ通及進達候也

年月日

何裁判所檢事氏名印

司 令 官 印

司法省丁之部

一〇三〇五



正誤

十二	同	廿九	六十三	六十三	七十八	九十二	九十三	百八	百廿一	百廿九	百卅	百卅三	百卅四	百卅六	百卅九	二百廿五	二百四十六	二百七十四	二百七十六	二百七十七	同	二百八十五
丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁
裏面二行	同而十三行	同而十一行	同而十一行	表面一行	裏面十三行	表面六行	同而十三行	裏面三行	同而三行	表面十三行	同而五行	裏面二行	同而三行	表面八行	裏面六行	裏面二行	表面四行	裏面十行	表面十一行	同而五行	裏面六行	裏面十一行

其ノ下除ハ(餘)ノ誤  
 二十九條ハ(九十二條)ノ誤植  
 陸換ハ(陸揚)ノ誤  
 可達相事ハ(可相達事)ノ誤植  
 津郡名ハ(津名郡)ノ誤植  
 農商ノ下(務)ノ一字ヲ加フ  
 二擲物ハ(二擲迄)ノ誤  
 物ノ下(出)ノ一字ヲ脱ス  
 管現ハ(管埋)ノ誤  
 支陸ハ(支給)ノ誤  
 五滿年ハ(滿五年)ノ誤植  
 海恩軍給ハ(海軍恩給)ノ誤植  
 當軍該人ハ(當該軍人)ノ誤植  
 通ヲ下(改)ノ一字ヲ加フ  
 者ノ下(由)ノ一字ヲ脱ス  
 鑑札賣出ハ(出賣)ノ誤植  
 經ノ下(費)ノ一字ヲ加フ  
 褒者ハ(褒賞)ノ誤  
 成蹟ノ下(範)ハ(及)ノ誤  
 權利ノ下(義)ノ一字ヲ加フ  
 唯ノ下(詰)ハ(詰)ノ誤  
 ノ刑ハ(換刑)ノ誤植  
 候條ノ下(爲)ノ一字ヲ加フ

明治十七年二月五日出版御届  
 同年五月出版

編輯兼 梶原猪之松  
 愛媛縣平民

愛媛縣國香川郡  
 西新通町十八番地

定價壹圓



